

(前ページから続く)

(3) 区会の組織化が進んでいない。

運営体制(後継者対策、運営ノウハウ整備、運営方針提示などの問題)

前任の区会長がワンマン的に活動していて、後継者が育っていない。

運営スタッフが少ないため、きめの細かい運営が難しい。(特定地域で定着しているKSC同窓会では各期ごとに世話役が配備されきめの細かい運営がなされている。)

区会長の引き継ぎが不十分で、運営のノウハウ習得に苦労する。

組織運営上、最低必要なノウハウ集、マニュアル、規則といったものが未整備。

区会長に区会運営のビジョン、方針がない。

本部サイドも具体的な方向づけを示していない。(区会自主運営を重視しすぎたり、不介入の態度は考えもの。)

区会員との情報連携

メールアドレスが個人情報保護の壁で把握し難く、緊密な情報連携体制が採れない。

区会の定例会、行事への参加率は平均区会員のせいぜい40%程度。区会員のまとまりが弱い。

(4) 現役ボランティア組織との交流、連携体制が弱い。

現役学生へのグループわPRが更に必要。

ボランティアセンターとの交流、情報連携を密にすべきである。

現役学生の地域交流活動が卒業後わの区会活動に引き継がれる体制づくりが必要。

3. 区会活性化のための具体策(まとめ)

第1回~第2回の推進会議で出た打開策主なものを挙げると以下のとおりです。

(1) 会員への区会活動に関する意識調査。

区会員へ「アンケート調査」を実施、区会へ足が向かない要因、希望するボランティア内容など率直な意見、要望などを再調査し、活性化の手がかりを掴む。

(2) 会員の区会参加率向上策

会員が寄ってくるような仕掛けづくり。区会へ出るのが楽しいという行事を企画する。飲み会、花

見、歩こう会、その他地域主催行事(祭りなど)参加など

(3) 会員相互のコミュニケーション対策

「区会だより」といった情報誌を作り、会員の活動をPRする。

ブロック運営を軌道にのせる。

メールを中心に連絡網を整備、活用する。

(4) 区会運営方針の明確化と運営のノウハウ整備

区会リーダーのリーダーシップ発揮

本部からの「運営の重点方針」提示。(例、小学校を舞台にした「地域ぐるみの学校支援活動」を全区で一斉実施など)

会則(区会運営規則)の整備、各区共有の運営ノウハウ集作成。

(5) 在校生への区会活動PR対策

PRのためには「わに入るとどんなメリットがあるか」整理することが肝要。

地域交流活動を卒業後もわの区会活動で続ける仕組みを確立する。

在校生の「情報誌」にわの区会活動を常時掲載しPRする。

ボランティアセンターやクラブ協議会といった在校生の組織とのパイプをもっと太くする。

「わ」入会即「居住区の区会員」という意識付けを入会時徹底する。



4. 当面の活性化取組みについて

以上一連の具体策実施にあたり、当面下記の施策を最優先で取り組み、活性化に弾みをつけたいと考えています。

(次ページに続く)